

# 岡山大学病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年10月 策定

【岡山大学病院の基本情報】

医療機関名：国立大学法人 岡山大学 岡山大学病院  
開設主体：国立大学法人 岡山大学  
所在地：岡山市北区鹿田町2丁目5番1号

許可病床数：855床

(病床の種別) 一般病床 819床  
感染病床 2床  
精神病床 34床

(病床機能別) 普通病床 752床  
R I 病床 3床  
I C U 病床 22床  
C C U 病床 8床  
N I C U 病床 6床  
救命救急センター病床 22床  
治験病床 6床  
精神病床 34床  
感染病床 2床

稼働病床数：845床

(病床の種別) 一般病床 815床  
感染病床 2床  
精神病床 28床

(病床機能別) 普通病床 750床  
R I 病床 3床  
I C U 病床 22床  
C C U 病床 8床  
N I C U 病床 6床  
救命救急センター病床 20床  
治験病床 6床  
精神病床 28床  
感染病床 2床

診療科目：29診療科 【医療法上の診療科（標榜診療科）】

- ・内科 ・消化器内科 ・精神科 ・小児科 ・小児神経科 ・外科 ・消化管外科
- ・肝・胆・膵外科 ・小児外科 ・整形外科 ・皮膚科 ・泌尿器科 ・眼科
- ・耳鼻咽喉科 ・放射線科 ・産婦人科 ・脳神経外科 ・麻酔科 ・神経内科
- ・循環器内科 ・心臓血管外科 ・形成外科 ・救急科 ・病理診断科
- ・リハビリテーション科 ・歯科 ・矯正歯科 ・小児歯科 ・歯科口腔外科

職員数： ・ 医師 995名（非常勤職員を含む）  
・ 看護職員 1,050名（非常勤職員を含む）  
・ 専門職 315名（非常勤職員を含む）  
・ 事務職員 417名（非常勤職員を含む）

（注：職員数は平成29年8月1日現在です。）

【1. 現状と課題】

## ① 構想区域の現状

県南東部保健医療圏における各種入院医療の自己完結率は入院全般で9割以上（県南西部9割以上、津山・英田が8割、真庭が7割、高梁・新見が6割）、療養病棟の入院で8割以上（全構想区域で8割以上）、救命救急入院で9割以上（県南西部で9割以上、津山・英田が8割以上、真庭が6割、高梁・新見が3割）であり高い自己完結率となっています。救急搬送時間については全構想区域とも、覚知から現場到着時間は変わらず、現場到着から収容については約25分程度かかる状況でありました。

平成28年度病床機能報告（平成28年7月1日現在）によると県南東部の病床数は11,245床であり、機能別による病床数は、高度急性期2,384床（21.2%）、急性期4,203床（37.4%）、回復期1,350床（12.0%）、慢性期2,922床（26.0%）、休棟等386床（3.4%）となっています。

（岡山県全体では病床数23,864床、うち高度急性期4,273床（17.9%）、急性期9,308床（39.0%）、回復期2,912床（12.2%）、慢性期6,502床（27.2%）、休棟等869床（3.6%）です。）

## ② 構想区域の課題

病床の機能分化及び連携については、少なくとも高度急性期を除く医療機能は、出来るだけ圏域内で対応するように取組む必要等があります。また、保健医療圏の広域化に伴って病床偏在が拡大し、身近なところで医療が受けにくくなる懸念があることなども考慮し、現在の二次保健医療圏を維持していく必要があります。

病床については、2025年時点での必要病床数の推計では、県南東部においては現在（H29.4.1）の許可病床数より1,708床少ない9,478床（現在許可病床数の84.7%）との結果が得られています。機能別による推計病床数は、高度急性期1,187床（同50.1%）、急性期3,335床（79.7%）、回復期2,927床（216.8%）、慢性期2,029床（82.1%）となっています。

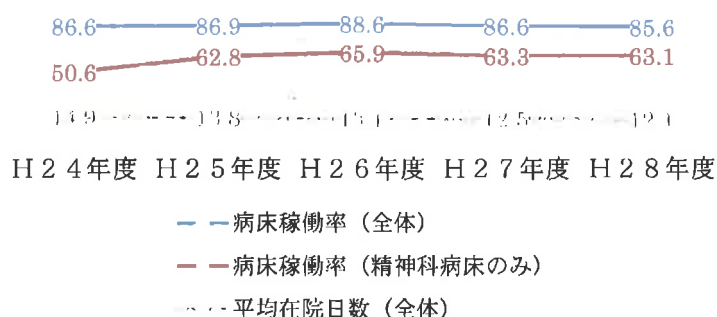
このことから、高度急性期、急性期が過剰になっているのに対し、回復期の病床が不足する結果となり、これらを今後のどのように対応していくかが大きな課題です。

### ③ 自施設の現状

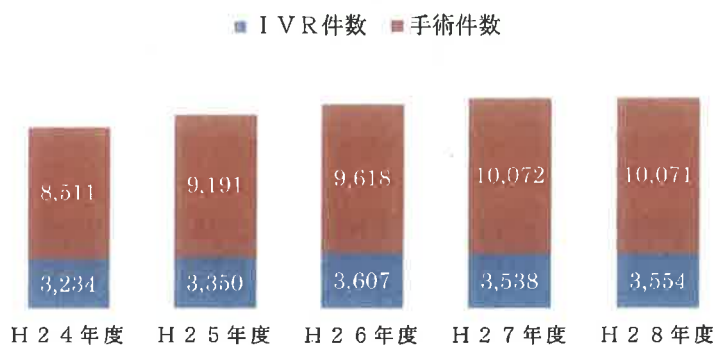
本院は、「高度な医療を優しく提供し、優れた医療人を育てます。」という理念に基づき、特定機能病院として高度急性期の患者を多く受け入れています。来院される患者は二次保健医療圏にとどまらず、県外からの患者も多く来院されています。来院される多くの方は、合併症を含む非常にリスクの高い症例や、先進医療などを求めてこられる方が多く見受けられます。また、地域病院との連携を深め、出来るだけ早い段階で転院をしていただくなどの対応も行っており、平均在院日数が12.1日（平成28年度実績）となっていることは、これらを裏付ける結果ともなっています。

また、中国四国地区において唯一の臨床研究中核病院であり、この地域における拠点病院として国際水準の臨床研究等を中心的に担っています。さらに歯学部併設の特徴を活かし、先進的な歯科医療の提供のみならず、先導的な医科歯科連携体制を構築し、現在、全国で導入されています歯科を含めた周術期管理体制を構築しています。

#### 病床稼働率等 (H24～H28年度)



#### 手術・IVR実施件数 (H24～H28年度)



\*手術の約75%が外科系学会社会保険委員会（外保連）の技術度D及びEである。

## 治験実施件数



H24年度 H25年度 H26年度 H27年度 H28年度

\* 治験件数は企業治験及び医師主導治験の合計数である。

### ④ 自施設の課題

本院は、高度急性期医療を担う病院として、その使命を果たして来ているところではありますが、これからの少子高齢化社会を踏まえると、医療の機能分化を行う事は非常に重要であると考えています。一方で、高度急性期医療を担っていくには、あらゆる疾患において一定水準の医療の質を担保しておく必要があり、単純に機能分化を進めることは非常に難しいと考えています。また、医療人の育成、新規医療技術の開発など、本院が担うべき使命は幅広く、医療の機能分化により、診療科等を縮小していく事などは非常に難しく、今後これらをどのように解決していくかが大きな課題です。

また、臨床研究中核病院でもあり、革新的な医薬品や医療機器の研究開発の推進を目的として、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的役割を担う病院としての使命も果たしていかなければなりません。

県北部の高齢化が進む地域の方々に対しては、持続的に安心な医療を提供し続ける必要があります。県北地域で活躍する医師・看護師・療法士・介護職等の医療従事者がキャリアを継続する事が出来るよう様々なサポート活動を行うことが必要です。また、地域で活躍できる医療人を育てることも重要な使命であり、地域医療教育にも力を注ぐ必要があります。

【2. 今後の方針】 ※ 1. ①～④を踏まえた、具体的な方針について記載

① 地域において今後担うべき役割

本院は、希少疾患や難病の患者の受入、さらには小児医療を総合的に行えるチーム医療を推進するなど、地域における「最後の砦」病院としての役割を果たしていかなければなりません。また、岡山県がん診療連携拠点病院として、がん医療に従事する医師等の研修、患者等への相談支援、情報の収集及び提供など、質の高いがん医療の提供体制を確立し、さらに高度急性期医療を始め、救命救急においては、今後想定される災害時の拠点病院としての役割を果たすことも重要な使命であると認識しています。

また、県北地域の方々に対しては、持続的に安心な医療を提供し続ける必要があります。そのためには、県北地域で活躍する医師・看護師・療法士・介護職等の医療従事者がキャリアを継続する事が出来るよう様々なサポート活動を行う必要があります。また、県北部においては高齢化が進んでおり、これは、患者側だけではなく、診療を行う医師側にも同様のことが起こっていることから、地域医療教育をより充実させ、総合医療を担える医療人の育成を目指し、地域医療の衰退に歯止めをかける必要があると認識しています。

本院歯科においては、県内唯一の歯科医師の教育機関であり、質の高い歯科医師を養成するとともに、訪問歯科診療教育を通じた地域医療への認識を深める体制を充実させる必要があると認識し、さらに障がい者歯科、口腔外科、老年歯科、医科歯科連携などの専門領域において、先導的な役割が求められていると認識しています。

② 今後持つべき病床機能

今後においても、高度急性期医療を中心的に担い「最後の砦」としての使命を果たすべく、高難度医療、先進医療、臨床研究等を積極的に行い、また、医療人の育成を担って行くために、あらゆる疾患において一定水準の医療の質を担保しておくことが必須であり、今後も現在の病床機能を維持し続けることが必要であると考えています。

③ その他見直すべき点

県北地域における医療者のキャリア支援など、地域への支援を継続していくことは必要であるが、今後はさらに、良質で安定的な医療提供体制の継続的整備に向け、医療人材育成をはじめ治験・臨床研究などの発展的連携を「岡山医療連携推進協議会」を中心に検討を行っていく必要があると考えています。

【3. 具体的な計画】 ※ 2. ①～③を踏まえた具体的な計画について記載

① 4機能ごとの病床のあり方について

<今後の方針>

|       | 現在<br>(平成28年度病床機能報告) |   | 将来<br>(2025年度) |
|-------|----------------------|---|----------------|
| 高度急性期 | 815 (精神病床除く)         | → | 815 (精神病床除く)   |
| 急性期   | 及び治験病床を              |   | 及び治験病床を        |
| 回復期   |                      |   |                |
| 慢性期   |                      |   |                |
| (合計)  | 815 (精神病床除く)         |   | 815 (精神病床除く)   |
|       | 及び治験病床を              |   | 及び治験病床を        |

<年次スケジュール>

|        | 取組内容  | 到達目標   | (参考)<br>関連施策等   |
|--------|---|--|---|
| 2017年度 | <b>【教育】</b><br>・新専門医制度導入準備<br>・地域教育体制の構築<br><b>【研究】</b><br>・臨床研究拠点事業<br>・国際的的患者受入事業<br><b>【連携】</b><br>・地域卒卒業医師の医師不足地域への配置<br>・地域におけるキャリアパス構築の準備                           | <b>【教育】</b><br>・連携教育病院の選定<br>・施設間協力体制の構築<br><b>【研究】</b><br>・バイオバンクの稼働<br>・治験病床の稼働<br>・JMIP取得<br><b>【連携】</b><br>・新規に医師を不足地域に配置                                | 集中的な検討を促進<br>2年間程度で<br>第7期<br>介護保険<br>事業計画<br>第7次<br>医療計画 |
| 2018年度 | <b>【教育】</b><br>・新専門医制度の開始<br>・医療連携の基盤構築<br>・総合診療専門研修着手<br>・海外修練医教育事業<br><b>【研究】</b><br>・大規模臨床研究<br>・医師主導治験の推進<br><b>【連携】</b><br>・地域卒卒業医師の医師不足地域への配置<br>・地域におけるキャリアパス構築の準備 | <b>【教育】</b><br>・地域での専攻医充足<br>・多職種連携教育体制<br><b>【研究】</b><br>・海外患者受入増加<br>・臨床研究・治験数増加<br>・医療現場でのAI活用<br><b>【連携】</b><br>・新規に医師を不足地域に配置<br>・内科・総合診療専門医のキャリアパスの可視化 |   |

|                         |  |  |                              |                |
|-------------------------|--|--|------------------------------|----------------|
| <p>2019～<br/>2020年度</p> | <p><b>【教育】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門医制度の開始と連携病院の有機的連結</li> <li>・自治医大卒業生・地域枠卒業生との連動研修</li> </ul> <b>【研究】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究の国際化</li> </ul> <b>【連携】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域枠卒業医師の医師不足地域への配置</li> <li>・地域におけるキャリアパス構築の準備</li> </ul> </p> | <p><b>【教育】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域施設における専攻医教育連携の稼働</li> <li>・総合診療医と各科専門医機能的連携</li> </ul> <b>【研究】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研究事業拠点創出</li> </ul> <b>【連携】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に医師を不足地域に配置</li> <li>・小児科・産婦人科・精神科・外科のキャリアパスの可視化</li> </ul> </p>        | <p>第7期<br/>介護保険<br/>事業計画</p> | <p>第7次医療計画</p> |
| <p>2021～<br/>2023年度</p> | <p><b>【教育】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における新専門医の活躍</li> <li>・多職種連携の推進</li> </ul> <b>【研究】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研究・治験事業の国際的拡大</li> </ul> <b>【連携】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域枠卒業医師の医師不足地域への配置</li> <li>・地域におけるキャリアパス構築の準備</li> </ul> </p>            | <p><b>【教育】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療現場における総合診療専門医の活躍</li> <li>・多職種教育連携効率化</li> </ul> <b>【研究】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル治験の推進</li> <li>・診療ビッグデータ活用</li> </ul> <b>【連携】</b><br/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規に医師を不足地域に配置</li> <li>・その他分野のキャリアパスの可視化</li> </ul> </p> | <p>第8期<br/>介護保険<br/>事業計画</p> | <p>第7次医療計画</p> |



② 診療科の見直しについて

検討の上、見直さない場合には、記載は不要とする。

<今後の方針>

|       | 現在<br>(本プラン策定時点) |   | 将来<br>(2025年度) |
|-------|------------------|---|----------------|
| 維持    |                  | → |                |
| 新設    |                  | → |                |
| 廃止    |                  | → |                |
| 変更・統合 |                  | → |                |

④ その他の数値目標について

医療提供に関する項目

- ・ 病床稼働率： 85%
- ・ 手術室稼働率： 70%
- ・ 紹介率： 80%
- ・ 逆紹介率 85%

経営に関する項目\*

- ・ 人件費率： 45%
- ・ 医業収益に占める人材育成にかかる費用（職員研修費等）の割合： 0.1%

その他：

\* 地域医療介護総合確保基金を活用する可能性がある場合には、記載を必須とする。

【4. その他】

(自由記載)